場所　愛知県日進市

面積　1.9ha



活動目的

・市内に残された貴重な自然環境として将来へ継承することを目的とする。
・自然観察などの体験活動を通じ、市民が身近な自然とふれあい、生物多様性への理解を深める場として活用する。

サイト概要

・愛知県日進市に位置する宗教公園内にある湧水湿地とため池
・湿地にはシラタマホシクサやトウカイコモウセンゴケなど、東海地方の湿地を代表する東海丘陵要素植物が生息している。
・ため池には希少種のウシモツゴやカワバタモロコが生息している。

土地利用の変遷

長年、宗教法人五色山大安寺の境内地として利用されている。

サイト周辺の環境

・愛知県日進市の北東部の丘陵地に位置する。
・申請サイト周辺は東部丘陵と呼ばれ、不透水層のある砂礫層から湧出する貧栄養の地下水によって涵養される小規模な湧水湿地が点在している。

アピールポイント

・環境省レッドリスト、愛知県レッドデータブックともに絶滅危惧IA類（CR）に選定されているウシモツゴの保全に貢献している。
・市民団体と協働してウシモツゴのモニタリング調査を実施している。
・地域住民の方々により日常的に湿地の保全活動が行われている。

生物多様性の価値

価値（１）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

環境省　「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」

【選定理由や内容】

選定理由は次のとおり。

「尾張丘陵・知多半島地域湧水湿地群」

・南北に伸びる尾張丘陵と知多丘陵に数多くの湧水湿地が点在する。シデコブシ、シラタマホシクサをはじめとした東海丘陵要素植物（東海地方固有種・準固有種）や絶滅危惧植物の生育地

「濃尾平野外縁部のため池群」

・ため池群や氾濫原が、貴重な種の生息地

・この地方固有の淡水魚であるウシモツゴ、トウカイヨシノボリが生息する。



写真の説明：五色園湿地



写真の説明：シラタマホシクサ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

本サイトは、宗教公園内にある湿地とため池であり、湿地は、上流からの流入水や斜面からの湧出水によって涵養され、東海地方の湿地を代表する東海丘陵要素植物が生息している。また、ため池には、この地方固有の淡水魚が生息している。

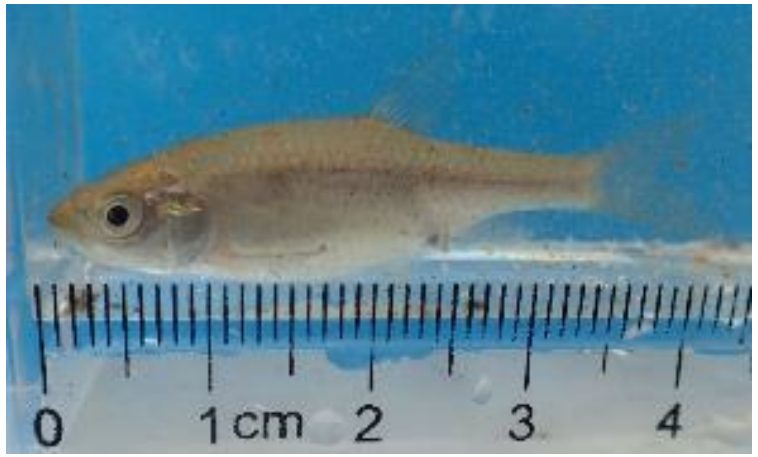
【確認された希少種】

本サイトでは、令和２年から令和３年にかけて実施した調査において、２１種の希少種が確認されている。主な種は以下のとおりである。

・ウシモツゴ
（学名：Pseudorasbora pugnax、成体、環境省レッドリスト絶滅危惧IA類）
・カワバタモロコ
（学名：Hemigrammocypris neglectus、成体、環境省レッドリスト絶滅危惧IB類）
・ミナミメダカ
（学名：Oryzias latipes、成体、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）
・シマジタムラソウ
（学名：Salvia isensis、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）
・ミカワタヌキモ
（学名：Utricularia exoleta、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）
・シラタマホシクサ
（学名：Eriocaulon nudicuspe、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）
・ウンヌケ
（学名：Eulalia speciosa、 環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）



写真の説明：ウシモツゴ



写真の説明：カワバタモロコ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
＜活動目的＞ 市内に残された貴重な自然環境として将来へ継承することを目的とし、自然観察などの体験活動を通じ、市民が身近な自然とふれあい、生物多様性への理解を深める場として活用する。 ＜活動内容＞ 申請区域を①湿地ゾーン、②ため池ゾーンに分けて、上述の価値⑴及び⑹の保全に貢献するよう以下の保全・利用活動を行う。 ①湿地ゾーン：このゾーンでは、シラタマホシクサやウンヌケ等が生息している場所として、草刈り、除草、低木伐採、周辺樹林の間伐・枝払い等の維持管理を行うほか、自然観察会を開催し、市民が身近な自然とふれあい、生物多様性への理解を深める場として活用する。 ②ため池ゾーン：このゾーンでは、ウシモツゴやカワバタモロコ等が生息している場所として、希少種への影響が懸念される外来種の駆除活動を継続して実施する。この活動の一部については、市民向けの講座として市民とともに実施し、外来種による生態系への影響の理解促進を図る場として活用する。 ＜実施体制、計画の点検・見直し＞ NPO法人生物多様性愛護会が中心となってこれら保全・その他維持管理作業を行う。本活動計画は２年に１回点検するとともに、５年に１回改定	**【モニタリング対象】** ①湿地ゾーン：両生類、昆虫類、植物 ②ため池ゾーン：魚類 **【モニタリング場所】** ①湿地ゾーン ②ため池ゾーン **【モニタリング手法】** ①湿地ゾーン：目視・直接採取 ②ため池ゾーン：もんどり網かごによる捕獲 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** ①湿地ゾーン：５年に１度の頻度で実施 ②ため池ゾーン：年２回（５月と１０月） **【モニタリング実施体制】** NPO法人生物多様性愛護会が中心となってモニタリングを行う。